

令和 4 年度（2022年度）第 1 回北区まちづくり懇話会 書面開催
懇話会委員様からのご意見・ご感想

1. まちづくりの主要指標の動向（検証資料P.2～15）について懇話会委員からのご意見・ご感想

番号	検証資料の頁	委員からのご意見・ご感想	事務局記載	委員名																																												
①人口・世帯の推移																																																
1	P.2	65歳以上の人口数が10年前よりも増えている。少子高齢化が進んでいる。	考察として、スライドPoint！に記載。	松尾委員、浅井委員、福田委員																																												
2	P.2	人口が減って、世帯数が増えているということは、単身や少人数世帯が増えている。核家族化が進んでいる。	考察として、スライドPoint！に記載。	丸山委員、松尾委員、戸野口委員、野原委員、荒木委員、中島委員、山崎委員																																												
3	P.2	家族による支えの限界を想定した地域で支え合うシステムが必要。地域での孤立化を防ぐ対策が必要。		丸山委員、中島委員																																												
4	P.2	出生率が低下や結婚しない方が多いのも人口減少の要因だろう。		戸野口委員、中島委員																																												
5	P.2	生産年齢（15-64歳）人口の減少は、働き盛りの減少であり、心配である。		白石委員																																												
6	P.2	少子化が北区の現状にどう反映されてくるのか、10年後の推測も知りたい。	区の独自予測はないが、本市全体では、H29年以降、出生者よりも死亡者が多い自然減の状況にあり、その傾向は加速している。さらに、社人研推計を上回るスピードで人口が減少している。 2040年の 老年人口（65歳以上）割合の推計において、 北区では田原・田底・楠で人口の約2人に1人が高齢者になる と予測されている。（総合戦略検証委員会）	白石委員																																												
7	P.2	植木5，6丁目のあたりを東に入ってみると立錐の余地もない集合住宅とっていいほど、家が密集している。車の離合も困難な有様。これはベッドタウンといたい環境か。ここだけの現象ではないと感じている。		高木委員																																												
8	P.2	核家族化の進行は今後も続くと思う。		野原委員																																												
9	P.2	独居高齢者世帯や高齢者世帯の詳細な情報が必要。	国勢調査によると以下のとおりで、高齢世帯は増加している。 <table><tr><td></td><td colspan="8">世帯人員の人数別65歳以上一般世帯人員（人）</td><td>一般世帯数</td><td>単身高齢世帯割合</td></tr><tr><td></td><td>総数</td><td>世帯人員が1人</td><td>世帯人員が2人</td><td>世帯人員が3人</td><td>世帯人員が4人</td><td>世帯人員が5人</td><td>世帯人員が6人</td><td>世帯人員が7人以上</td><td>（世帯）</td><td>（％）</td></tr><tr><td>2015年</td><td>23,588</td><td>5,853</td><td>9,894</td><td>4,131</td><td>1,730</td><td>986</td><td>577</td><td>417</td><td>55,208</td><td>10.6</td></tr><tr><td>2020年</td><td>37,611</td><td>6,744</td><td>18,021</td><td>7,623</td><td>2,731</td><td>1,228</td><td>692</td><td>572</td><td>56,661</td><td>11.9</td></tr></table> ※高齢単身者／一般世帯数＝単身高齢世帯割合		世帯人員の人数別65歳以上一般世帯人員（人）								一般世帯数	単身高齢世帯割合		総数	世帯人員が1人	世帯人員が2人	世帯人員が3人	世帯人員が4人	世帯人員が5人	世帯人員が6人	世帯人員が7人以上	（世帯）	（％）	2015年	23,588	5,853	9,894	4,131	1,730	986	577	417	55,208	10.6	2020年	37,611	6,744	18,021	7,623	2,731	1,228	692	572	56,661	11.9	荒木委員
	世帯人員の人数別65歳以上一般世帯人員（人）								一般世帯数	単身高齢世帯割合																																						
	総数	世帯人員が1人	世帯人員が2人	世帯人員が3人	世帯人員が4人	世帯人員が5人	世帯人員が6人	世帯人員が7人以上	（世帯）	（％）																																						
2015年	23,588	5,853	9,894	4,131	1,730	986	577	417	55,208	10.6																																						
2020年	37,611	6,744	18,021	7,623	2,731	1,228	692	572	56,661	11.9																																						

1. まちづくりの主要指標の動向（検証資料P.2～15）について懇話会委員からのご意見・ご感想

番号	検証資料の頁	委員からのご意見・ご感想	事務局記載	委員名
②健康・福祉				
1	P.3	特定健診受診率の低さに驚いた。	考察として、スライドPoint！に記載。	浅井委員
2	P.3	特定健診の受診率向上対策として、毎年どのような工夫をされているのか。	・特定健診受診勧奨（ハガキや電話による勧奨）、インセンティブ事業（H29-）等を実施。	荒木委員
3	P.3	子育て支援活動への参加が10年前よりも減少。子育て中の親のコミュニティが少なくなっていることが心配。	考察として、スライドPoint！に記載。	松尾委員、中島委員
4	P.3	子育て支援活動への参加の減少の原因が、活動の機会の減少なのか、活動の開催回数は変わらずとも参加する人数が減っただけなのか気になる。		吉村委員
5	P.3	子育て支援活動とは具体的にどのような活動を意図されているのか。また、子育て世代の区民のみで分析することは可能か。平成29年度が極端に低い理由が気になるが、近年の参加状況の低迷はコロナ禍の影響を考慮すべきであると思う。	・子育て支援活動とは「<u>子ども会活動、PTAによる地域活動、子育て支援に関する様々なボランティア活動、子ども安全パトロール、子育て支援ネットワークなど、地域における子育てに関する多様な（広範囲な）活動</u>」のこと。 ・子育て世代…R3の全市の傾向であるが、家族構成が「<u>夫婦に子どものみ</u>」の方に限っては、参加したことがある割合が12.4%となっている。年齢別では、<u>35～49歳までが高く、35～39歳が13.1%、40～44歳が19.2%、45～49歳が11.9%</u>となっている。 ・平成29年度については、アンケートの全体的に低い状況にある。	荒木委員
6	P.3	コロナ禍においては、以前に比べ子育て支援イベント参加者数が減っている。		山崎委員
7	P.4	「健やかにいきいきと暮らしていると感じる市民の割合」について、年代別に比較してみるとどのような結果になるのか。	本市全体の傾向であるが、 <u>20～24歳で67.9%と高く、次に70～74歳62.3%、75～79歳60.8%、80歳以上58.2%</u> となっている。 <u>一番低いのは50～54歳の36.8%</u> であり、その他の年代は40%台である。	荒木委員
8	P.4	「健やかにいきいきと暮らしていると感じる市民の割合」の減少は、住宅の密集で道路も離合しにくいといった、住環境と関係もあるのではだろうか。		高木委員

1. まちづくりの主要指標の動向（検証資料P.2～15）について懇話会委員からのご意見・ご感想

番号	検証資料の頁	委員からのご意見・ご感想	事務局記載	委員名
9	P.5	子どもの健やかな成長を感じない部分を実感としてある。共働き世帯も多く、子どもだけで遊ぶ姿が見られる。		戸野口委員
10	P.5	「子どもたちが健やかに成長していると感じる市民の割合」について、評価が上がった要因として、どのような施策があるか。	市全体及び他の4区でも高まっていることから、総合戦略の少子化対策の中での子ども・子育て支援体制の充実が大きいのではないかと。	丸山委員
11	P.3～5	熊本市の平均と変わらない範囲。コロナ禍の影響も加味する必要がある。		野原委員
12	P.3～5	健康不安を抱く人は、潜在的に増えているのではないかと。医療福祉の充実も大事だが、心の健康を維持するためにも、人のつながりをつくる施策も必要。		中島委員
13	P.4～5	コロナ禍といえど、大人も子どももともに”生き生き”と暮らしていないと感じているようで残念。		白石委員、福田委員

1. まちづくりの主要指標の動向（検証資料P.2～15）について懇話会委員からのご意見・ご感想

番号	検証資料の頁	委員からのご意見・ご感想	事務局記載	委員名
③防犯・防災				
1	P.6	交通事故件数や刑法犯認知件数の減少傾向は喜ばしいが、両者の連動の理由が不明。何か対策等を講じているのか。	・交通事故件数や刑法犯認知件数の減少の明確な理由は不明。 ・交通安全運動や防犯団体への助成を実施し、交通安全意識の高揚と、防犯団体への活動の支援を行っている。	野原委員、荒木委員
2	P.6	安心感の増加は、交通事故件数や刑法犯認知件数の減少傾向が理由と考えられる。		野原委員、高木委員
3	P.6	防犯について、件数は減少しているが、犯罪の質が昔と大きく変化している。特殊詐欺等、あからさまに見えるものではない事への予防が大事。		中島委員
4	P.8	<u>災害時に自身がどこの指定避難所に避難すれば良いか知らない、どのルートで避難するか不明確な人が多く、課題</u> と感じる。	考察として、スライドPoint！に記載。	松尾委員、浅井委員、白石委員、荒木委員
5	P.8	自身が利用する最寄りの指定避難所の周知については、年代別に分けるとどの層に働きかけるとよいかかわかるのではないかな。	本市全体の傾向であるが、 <u>40代以上は概ね80%を超える人が把握している。25～29歳の58.5%が一番低く、30～35歳が67.4%となっている。</u>	荒木委員
6	P.8	災害時の混乱を避けるためにも、 <u>指定避難所を知らない区民の割合を減らしていかなければならない。</u>	考察として、スライドPoint！に記載。	白石委員、吉村委員、
7	P.8	指定避難所といっても、距離的が遠く高齢者が行きにくい場所にある避難所もある。そういった問題が解消できれば良いと思う。		戸野口委員
8	P.7～8	避難する場所を知っている市民の割合が高く、安全安心して暮らせるまちと感じている市民が多い。		福田委員
9	P.7～8	地震、水害によって関心度は高くなっているが、人まかせの意識が強いように感じる。自助の意識をどう育むか。		中島委員
10	P.7～8	市民の高評価のポイントはどこにあるのか知りたい。その上で、今後の課題はどこにあるのか。	平成27年までの指定避難所の認知度を計る市民アンケートでは、 <u>認知度が85～89%であったことから、熊本地震を契機とした防災意識向上が理由にある</u> と考えている。 防災関係の課題については、「自身が利用する指定避難所の周知」、「自助・共助の意識の醸成」が挙げられる。	丸山委員

1. まちづくりの主要指標の動向（検証資料P.2～15）について懇話会委員からのご意見・ご感想

番号	検証資料の頁	委員からのご意見・ご感想	事務局記載	委員名
④産業				
1	P.9	商店数など、どの水準が必要なのか？元に戻す必要があるのか？現状維持が課題なのか。	買物問題を考えると、地域の商店数が減少するのは好ましくない。しかし、地域ヒアリングにおいては、地元商店数の減少について、生業として維持できないのであればやむを得ないという意見が多かった。	丸山委員
2	P.9	就業者数の総数が増加している。特に第3次産業の就業人口が増加している。	考察として、スライドPoint！に記載。	福田委員
3	P.9	大型ショッピングセンターの進出により、小売業は減っているのではないか？自身も遠くまで出かけることが多くなった。		戸野口委員
4	P.9	農を中心にした活動が持続 できていることは、努力の成果なのであろう。	考察として、スライドPoint！に記載。	白石委員
5	P.9	産業別就業人口・小売業の商店数共に、全国の傾向との比較、分析が必要。	全国傾向として ・産業別就業人口は 第3次産業は調査開始以来増加 が続いている。 一方、第1次産業は 昭和30年以降 、第2次産業は 平成7年以降 、 それぞれ減少 が続いている。 ・小売業については、昭和60年以降商店数の減少が続いている。	野原委員
6	P.9	産業区分に関わらず、 就業人口が増加 していることは、北区にとって良い傾向であると思う。行政主導だけでなく、働く場を北区から通える範囲内で作り出していく必要性を感じた。	考察として、スライドPoint！に記載。	荒木委員
7	P.9	北区は農業などの特産物が多くある半面、商店街など一定の買い物客が集まる所がない。バザーをからめたフェアの実施も一案ではないか。		中島委員

1. まちづくりの主要指標の動向（検証資料P.2～15）について懇話会委員からのご意見・ご感想

番号	検証資料の頁	委員からのご意見・ご感想	事務局記載	委員名
⑤道路・交通				
1	P.10	「都市機能が充実して安全・快適と感じる市民の割合」について ・北区が劣るポイントはどこか。 ・「あまり感じない」「全く感じない」と回答する人の理由を知りたい。	地域ヒアリングにおいては、「北区は公園が多く快適である。河川改修（菊池川・合志川）が進み安心につながっている。」といった意見がある一方、 <u>「主要道路（北バイパス・植木バイパス）の建設は進んでいるものの、その周辺部の渋滞が年々ひどくなっている」</u> という意見を持つ地域が多かった。	丸山委員、荒木委員
2	P.10	国道3号の渋滞が北バイパスの延長完成でどれだけ緩和できるかは未知数であるが、清水バイパスから先（北）の4車線化は必要かと思う。		中島委員
3	P.10	北バイパスの延伸により、以前に比べ北区から外へのアクセスがスムーズになったと感じている。		山崎委員
4	P.10	車社会であり、ほとんどの家庭が自動車を持っておられる。CO2等のことを考えると、住環境に悪影響である。		高木委員
5	P.11	ゆうゆうバス「麻生田・弓削循環ルート」があることすら知らなかった。 <u>龍田方面から植木方面に行く公共交通機関がなく</u> 、不便に思う。	考察として、スライドPoint！に記載。	松尾委員
6	P.11	<u>植木地域と龍田地域の交流の不便性が全ての活動の不活発さにつながってしまう</u> のではないかと。	考察として、スライドPoint！に記載。	白石委員、松尾委員
7	P.11	ゆうゆうバスの廃止になった2路線については、周知方法が不十分だったり、運行ルートが市民に寄り添った形ではなかったと思う。		松尾委員、浅井委員
8	P.11	ゆうゆうバス「植木循環ルート」については、高齢者にとっては非常にありがたい存在だと聞いている。 <u>今後の継続のために、多くの方に利用してもえるようPRが必要</u> 。	考察として、スライドPoint！に記載。	吉村委員、福田委員

1. まちづくりの主要指標の動向（検証資料P.2～15）について懇話会委員からのご意見・ご感想

番号	検証資料の頁	委員からのご意見・ご感想	事務局記載	委員名
9	P.11	ゆうゆうバスは「植木循環ルート」のみで十分なのか。	地域ヒアリングにおいても、北区役所周辺でのイベントが多いにも関わらず、清水・龍田地域からの北区役所への公共交通機関がないといった声があった。また、植木・龍田地域においては、公共交通の便数減少、路線廃止によるコミュニティ交通の運行、さらにはそのコミュニティ交通がより利用しやすい移動手段となるよう望む声があった。	丸山委員
10	P.11～12	北区役所の位置的問題や高齢者に配慮して公的地域トランスポーションの整備が必要。		野原委員
11	P.11～12	熊本は車社会である一方、高齢化で運転できない方の増加を踏まえ、コミュニティ交通も必要だが、企業やJA等と連携した移動販売の検討をしても良いかもしれない。	それぞれの地域において、スーパーストアやコンビニエンスストアと連携して、移動販売等を実施されている。	中島委員

1. まちづくりの主要指標の動向（検証資料P.2～15）について懇話会委員からのご意見・ご感想

番号	検証資料の頁	委員からのご意見・ご感想	事務局記載	委員名
⑥住民自治・協働				
1	P.13	自治会活動について、自身の地区では休日であれば出席率の高いように思う。		浅井委員
2	P.14	「まちづくり」の認知度が低く、 <u>回答も「どちらとも思わない」になるのでは。</u>	考察として、スライドPoint！に記載。	松尾委員
3	P.14	本アンケート結果をまちづくりセンターが目標とする評価指標とみるならば、区民の意向からは更なる活動の改善や向上が求められていると感じた。まちづくりセンター職員が各地域の集会等に積極的に参加し、地域の中に入って活動を住民主体の活動になるよう支援している地域もあるため、この指標に対する評価は少し厳しい印象を受ける。しかし、結果を真摯に受け止めて、改善策を講じる必要があると考える。別ページに記載されているまちづくりセンターの活動状況もこの取り組みの一環として記載してもよいと感じた。	P.14に、まちづくりセンターの相談・要望件数（北区の4まちづくりセンターおよび市全体17まちづくりセンター）を追加。	荒木委員
4	P.15	「熊本市に住み続けたいと感じる市民の割合」について、データからはいい方向であると感じるが、年代別（特に若い世代）がどう思っているかが気になるので、年代別データを取ることも一案ではないか。	本市全体の傾向であるが、住み続けたいと感じる割合が55-59歳で82.3%で一番高いのに対し、 <u>子育てをしたり、住居を構える年代である30-34歳については69.6%で最も低い。</u>	中島委員
5	P.13～15	コロナによって大きく影響を受けている分野。これまで参加していた人も参加しなくなっている。 <u>コロナ収束で元に戻るとは思えない。今後どう変化していくのか。ポストコロナ時代の新しい仕組みが必要</u> では。	考察として、スライドPoint！に記載。	丸山委員、白石委員
6	P.13～15	地域活動に参加したことがある人は減少しており、自主・自立的なまちづくりが進んでいると思わない人の割合が多い。その一方で、熊本市に住み続けたいと思う人は多い。		福田委員
7	P.13～15	地域でボランティアをしてくれる方が少ないと感じる。		戸野口委員
8	P.13～15	まちづくりセンター（地域担当職員）のご努力には感謝している。		白石委員

1. まちづくりの主要指標の動向（検証資料P.2～15）について懇話会委員からのご意見・ご感想

番号	検証資料の頁	委員からのご意見・ご感想	事務局記載	委員名
9	P.13～15	<u>共助、自立的まちづくりなどの住民の意識が低く、懸念</u> している。	考察として、スライドPoint！に記載。	白石委員
10	P.13～15	コロナ禍で活動の機会は減ったが、まずはコロナ前の状態に戻し、8割位の人が年に一度でも地域活動に参加する状態になれば、さまざまなまちづくりの活動につながってくると思う。		吉村委員
11	P.13～15	住民自治・協働を進めるためには、住人の主体者意識の啓発・醸成が必須。また、併せて、それぞれの役割を明確に設定していくことも必要。		野原委員

1. まちづくりの主要指標の動向（検証資料P.2～15）について懇話会委員からのご意見・ご感想

番号	検証資料の頁	委員からのご意見・ご感想	事務局記載	委員名
◆まちづくりの主要指標の動向を通じて				
1		行政も街もいろいろ頑張ってきてはいるが、地盤沈下は続いている、というのが総括イメージ。これまでと同じやり方を続けても、維持や改善は難しいと感じる。		丸山委員
2		北区民が「熊本市に住み続けたいと感じる市民の割合」が市平均より少ない。その理由はどんなところか。	地域別であれば、旧熊本市域（北部・清水・龍田）で75.2%に対し、植木地域では67.3%である。旧市域でも市全体より低い、植木地域となるとさらに低い状況である。	白石委員
3		もっと若い世代がまちづくり活動に積極的に参画することが今後数十年先の事を考えれば、重要になってくると思う。		吉村委員
4		検証結果を分析し、課題の抽出やこれからの北区のあるべき方向性を検討し、今後のビジョンを策定していく必要がある。また、官民一体となった連携・協働体制を築いていくことも重要だと考える。		野原委員

2. 基本方針ごとの主な取組と成果（検証資料P.22～36）に対する懇話会委員からのご意見・ご感想

番号	委員からのご意見・ご感想	事務局記載	委員名
基本方針1 健康と暮らしの安全・安心の向上			
≪基本方針1に対する意見のまとめ≫ ①スポーツに関する取り組みへの評価が高い。一方で、日常における健康づくり活動や健康の底上げについては課題が残る。 ②イベントや事業実施の「場所」については、偏りが見られる。清水地域や龍田地域での開催を。 ③事業実施やイベント実施については、時代の潮流や目的を踏まえて見直し、より効果的な実施を。 ④熊本地震を経て防災意識は向上しているものの、身近な地域単位での防災体制づくり・活動推進が課題。			
1	この分野は、方針と取組の関連がまあ分かりやすいと感じる。取組の成果が目標につながっている印象がある。		丸山委員
2	いろんな取組をされたことは良いことと思うが、やはり開催が地域的に偏りがあると思う。龍田に住む私からすると、すべて遠い所のイベントのイメージである。「こどもまつり」に行っても、友達がいないので行きたがらず、遠く感じる。	課題）イベント開催場所を清水地域や龍田地域でも実施。	松尾委員
3	スポーツ大会はグランドゴルフ等の参加者が多く、高齢でも生き生きスポーツを楽しんでおられる。スポーツ大会と並行して行われる親子スポーツ大会も親子そろってビーチボールバレーの試合を楽しんでおられ、良いコミュニケーションの場である。		浅井委員
4	健康づくり活動において、全域・毎日・全員などとイベントではなく、日常的な活動を展開するのが難しい。	課題）日常における健康づくりの取組。	白石委員
5	青少年の健全育成への係りが難しい、見えない。		白石委員
6	北区こどもまつりについては、大きな予算がついていると思うので、来場者も多く、来場者の満足度も高いと感じている。こどもまつりを通じて、区民の方が新しい発見をしたり、新たなコミュニティが出来たり、次につながるイベントとなればと思います。	課題）北区イベント（北区こどもまつり）のあり方についての検討。	吉村委員
7	継続してスポーツ大会や防災まちづくり事業も行う必要があると思う。		吉村委員

2. 基本方針ごとの主な取組と成果（検証資料P.22～36）に対する懇話会委員からのご意見・ご感想

番号	委員からのご意見・ご感想	事務局記載	委員名
8	校区単位で取り組んでいる健康まちづくり活動について、具体的に知りたいと感じました（各校区で目指している目的・目標、何校区で実施しているのか、実施組織体制、メンバー、参加回数、関係機関との連携状況など）。	情報提供）校区単位での健康まちづくり活動について、校区ごとの考え・活動状況の違い等から、すべての校区の情報の把握・公表は行っていない状況である。	荒木委員
9	市民アンケートの結果だけでなく、アウトプット評価やプロセス評価を加えていくと北区として実施していることが成果・実績として反映されるのではないかと思います。	資料修正）北区の成果・実績へのアウトプット評価・プロセス評価の追記を今後行う予定。	荒木委員
10	熊本地震を経て、防災意識は高まっているものの、一番身近な自治会での防災体制はできていないのではないかと。	課題）自治会単位での防災体制、防災意識の醸成。	中島委員
11	健康については、高齢化により、多種多様な対応が求められるようになってきていると感じる。イベントもあまり運動ができない方や障がい者を招待して、多様な方の交流ができることも必要と考える。		中島委員
12	自身は小さい時から体を動かすことが好きで、卓球やゴルフを楽しんだし、ウォーキングジョギングも晩年までつづけた。そのことは健康維持に役立ったと思うし、主張に値するかもと思う。		高木委員
13	コロナがより落ち着き、様々な人が交流できることを願うっている。人と人とが交わることを北区は以前から大切にしているので、さらに賑やかになってほしい。		山崎委員
14	北区こどもまつりについて、見直した方が良くと思う。子どもたちを地域で見守り、親睦、交流を図るということであれば、もっと他の方法があるのでは？予算がもったいない。	課題）北区イベント（北区こどもまつり）のあり方についての検討。	福田委員

2. 基本方針ごとの主な取組と成果（検証資料P.22～36）に対する懇話会委員からのご意見・ご感想

番号	委員からのご意見・ご感想	事務局記載	委員名
基本方針2 住みやすい住環境の整備			
《基本方針2に対する意見のまとめ》 ①交通分野に対する区役所の関わり方が課題。 ②地域資源である企業や民間団体と連携したまちづくり推進事業を。			
1	コミュニティ交通に関しては、現状をよしとするのか、課題ありとするのか？その評価が伝わってこない。目標と取組の関連性が今一つつながらない印象。	課題）公共交通に対する北区の関わり方。	丸山委員
2	ゆうゆうバス植木循環ルートは知名度が上がっているのですが、他のバスルートも作ってもらいたい。コミュニティ交通が運行しているようで、高齢者の方には知名度があっても、自身は知らなかった。タクシーは大人は使うが、子ども、学生の移動としては使うことが少ないと思う。	課題）公共交通に対する北区の関わり方。	松尾委員
3	北区の花「ひまわり」の種子をもっとたくさん配布してほしい。休耕地等にもっとたくさん花を咲かせたらと思う。		浅井委員
4	植木中心の北区の活動が見える。		白石委員
5	公園は大きさによって機能性が違う。大きな公園の把握をしてほしい。そこは避難所にもなると思う。		白石委員
6	コミュニティ交通はありがたいが、活用のしやすさを高めてはどうか（タクシーチケットの配布など）。	課題）公共交通に対する北区の関わり方。	白石委員
7	寂心さんのブランディングを進める事で、地域の活性化につながると思うので、ぜひ色々なアイデアで取り組んでほしい。		吉村委員
8	行政の施策だけでなく、民間と連携したまちづくり推進事業であってもよいのではないかと感じました。	課題）地域資源を生かした事業等の検討。	荒木委員
9	環境美化活動を中学生と一緒にしている活動は、地域に対する愛着形成に役立っていると思うので、幼稚園や小学校からの取り組みも推進していくとよいと感じました。		荒木委員

2. 基本方針ごとの主な取組と成果（検証資料P.22～36）に対する懇話会委員からのご意見・ご感想

番号	委員からのご意見・ご感想	事務局記載	委員名
10	子育て支援やイベント、環境資源を活かした取組みなど、一定の評価はできるが、公園など身近な遊び場や集う場所の充実がもう一つだと感じる。	課題）地域資源を生かした事業等の検討。	中島委員
11	今、町自体は住環境が増え、都会化というが、周辺住民との会話がなくなりつつあるように思う。放っておけば、もっと増えるだろう。公民館の利用とか先ずはやってみること、考えを出し合ってみてはどうか。		高木委員
12	寂心公園や各所での美化活動、豊かな自然が多いので、北区は心安らぐ地域だと思う。		山崎委員
13	JR植木駅という恵まれた公共交通機関があるが、そこへのアクセスが不便である。運行時間帯がどうなっているのかよく分からないが、ゆうゆうバスの運行を、もっと利用できるものにしたら良いと思う。	課題）公共交通に対する北区の関わり方。	福田委員

2. 基本方針ごとの主な取組と成果（検証資料P.22～36）に対する懇話会委員からのご意見・ご感想

番号	委員からのご意見・ご感想	事務局記載	委員名
基本方針3 まちの賑わいと産業の振興			
≪基本方針3に対する意見のまとめ≫ ①北区は農業がさかんで新鮮な野菜がとれる地域であり、これまで実施した農業に関する取組については一定の評価。 ②事業やイベント実施にあたっては、区民への周知方法が課題。 ③農業分野や観光分野に対する区役所の関わり方が課題。			
1	北区役所に専門部署がないのは課題ではないか？できることはやっているが、課題の解決にはつながっていないという印象。	課題）農業分野や観光分野に対する北区の関わり方。	丸山委員
2	北区の農業の収穫体験等、良かったのではないかな。スーパー等で売られている野菜しか知らない子どもも喜んでくれたのではないかな。	評価）農業に関する取組への評価。	浅井委員
3	農が第一と思う。もっと全区的にマルシェなどでPRできないかな。	課題）農業分野や観光分野に対する北区の関わり方。	白石委員
4	大きい企業はないが、企業がもっと地域の活動に協力してほしいと思う。		白石委員
5	グリーンツーリズムは、良い取組だと思うので、規模と参加数の拡大を期待する。学校や保育園、幼稚園、福祉介護施設、商店や企業を巻き込んで、商品開発まで出来れば北区のPRではないかな。	評価）農業に関する取組への評価。 課題）農業分野や観光分野に対する北区の関わり方。	吉村委員
6	野菜摂取促進事業は今後も継続して進めて、乳幼児期からの味覚形成を大切にしてほしいと考えます。		荒木委員
7	植木温泉などの泉質の良い温泉が北区にはあるので、観光振興や歴史文化の継承と合わせて、人が集まる仕組みづくりができるとよいと思いました。	課題）農業分野や観光分野に対する北区の関わり方。	荒木委員
8	「モノ」から「コト」への転換として、グリーンツーリズムは良い取組だと思う。今後はデザイナーなどの人材による発信力を高める必要があるのではないかな。	課題）農業分野や観光分野に対する北区の関わり方。	中島委員

2. 基本方針ごとの主な取組と成果（検証資料P.22～36）に対する懇話会委員からのご意見・ご感想

番号	委員からのご意見・ご感想	事務局記載	委員名
9	旧植木町の「植木市」はすごい賑わいだった。加えて天満宮での祭等、にぎやかだった。それは昔で、同じことを求めようとは思わないが、ふと思い出してしまう。今は賑わいがどうであろうか。		高木委員
10	農業に携わる方が多いので、自然と野菜を食べようという雰囲気があるように思う。新鮮な野菜が安く手に入る、とてもいい地域だと思う。		山崎委員
11	北区幸せ絵巻、グリーンツーリズムin北区について、知らなかった。	課題）実施における周知が不足。	福田委員

2. 基本方針ごとの主な取組と成果（検証資料P.22～36）に対する懇話会委員からのご意見・ご感想

番号	委員からのご意見・ご感想	事務局記載	委員名
基本方針4 資源の継承と活用			
≪基本方針4に対する意見のまとめ≫ ①温泉や田原坂、豊かな自然環境といった地域資源が多い。 ②地域資源の整理やそれに対する市民の評価を踏まえた活用を。 ③北区の良さのPRや事業実施における周知が不足しており、北区内外への発信方法が課題。			
1	北区の資源継承に関して、どの程度、住民の共感が得られているのか？少し不安。	課題）地域資源の整理やそれに対する市民の評価が課題。	丸山委員
2	「きたくなるカフェ」の開催を増やし、子育て支援参加機会の増加を目指すこともいいと思う。植木温泉での開催も龍田地域は全く知らずだった。情報をもっと北区に広げてほしい。勿体ない、外でも開催してもらいたい。	課題）実施における周知が不足。	松尾委員
3	北区にある自然豊かな物を大いに活用してほしい。	課題）地域資源（自然）の活用。	浅井委員
4	歴史・文化の発見とその継承が難しい。専門家に相談できるシステムが欲しい。（北区担当学識経験者など）		白石委員
5	公園を利用する市民の割合が少ないが、北区は「公園」をどう捉えておられるか。		白石委員
6	きたくなるカフェの参加人数が乳幼児の親の全体の人数と比べて多いのか？少ないのか？検証してほしい。継続的にやることで、人数も増えて認知度も上がると思うが、参加した人の感想も気になる。	参加者については、平成30年度は乳幼児健診に来られた方を対象とし、令和元年度からは市政だよりでの参加呼びかけも実施。2年間で開催回数24回・参加者52名で、仲間づくりについては十分な機会ではなかったものの、参加者アンケートにおける地域活動情報を知りたい参加意欲のある方は100%の結果。	吉村委員
7	基本方針3同様に、野菜摂取促進事業は今後も継続して進めて、乳幼児期からの味覚形成を大切にしてほしいと考える。		荒木委員
8	基本方針3同様に、植木温泉などの泉質の良い温泉が北区にはあるので、観光振興や歴史文化の継承と合わせて、人が集まる仕組みづくりができるとよいと思った。	課題）地域資源の活用。	荒木委員

2. 基本方針ごとの主な取組と成果（検証資料P.22～36）に対する懇話会委員からのご意見・ご感想

番号	委員からのご意見・ご感想	事務局記載	委員名
9	北区には田原坂など歴史的資源が豊富であり、かつ都会と田舎が融合された地であることから、史跡めぐりなど、より肌で、それを感じられるイベントを検討してはどうか。	課題）地域資源（田原坂）の活用。	中島委員
10	東京の銀座、新橋等の果物店の正面展示場の一番目立つところに「植木西瓜」の現物が展示されており、びっくりしたことがある。名産品を増やすことはできないだろうか。		高木委員
11	植木温泉という温泉地をもっと利用して、地域を盛り上げてほしい。	課題）地域資源（植木温泉）の活用。	福田委員
12	農産物もおいしいものがたくさんあるので、地産地消を呼びかけるのはもちろん、域外の方々へもPRしたら良いと思う。	課題）北区の良さのPRが課題。	福田委員

2. 基本方針ごとの主な取組と成果（検証資料P.22～36）に対する懇話会委員からのご意見・ご感想

番号	委員からのご意見・ご感想	事務局記載	委員名
基本方針5 住民自治と協働の推進			
《基本方針5に対する意見のまとめ》 ①企業・大学・地域と連携した取組がされていることは評価。 ②自治会活動の負担軽減や自治会活動参加者の増加が課題。 ③ICTを利用した地域活動の活性化、北区Youtubeによる情報発信の推進などICT活用を。			
1	現状、活動参加住民が減っている中、ICT活用などは、もっと大規模にやらないと効果が期待できないのでは？やりたい人には機会を提供していますというレベルで、課題解決は遠い印象。	課題) ICTを利用した地域活動の活性化を。	丸山委員
2	LINEの活用は、地元自治会の連絡に使用しているが、もっと多くの人々とのコミュニケーションのツールとしては、便利なものである。		浅井委員
3	自治協なり自治会を区行政の周知機関、下請団体として育てようとしておられるのか。	課題) 自治会の負担軽減。	白石委員
4	”あらゆる人が社会で参加”は大変良いが、そうできる何かが分からない。		白石委員
5	地域活動担い手育成事業のような積極的活動がいるか。	課題) 自治会活動参加者の増加。	白石委員
6	Youtubeチャンネルをブラッシュアップして登録数を増やす事で、様々な広報活動につながると思うので、力を入れて欲しい。チャンネルのQRコードなどを地域に広く発信してみれば、登録数の増加になるのではと思う。	課題) 北区Youtubeの活用。	吉村委員
7	企業・大学・地域と連携した取り組みがあって良い取り組みがされていると思います。	評価) 企業・大学・地域の取組への評価。	荒木委員

2. 基本方針ごとの主な取組と成果（検証資料P.22～36）に対する懇話会委員からのご意見・ご感想

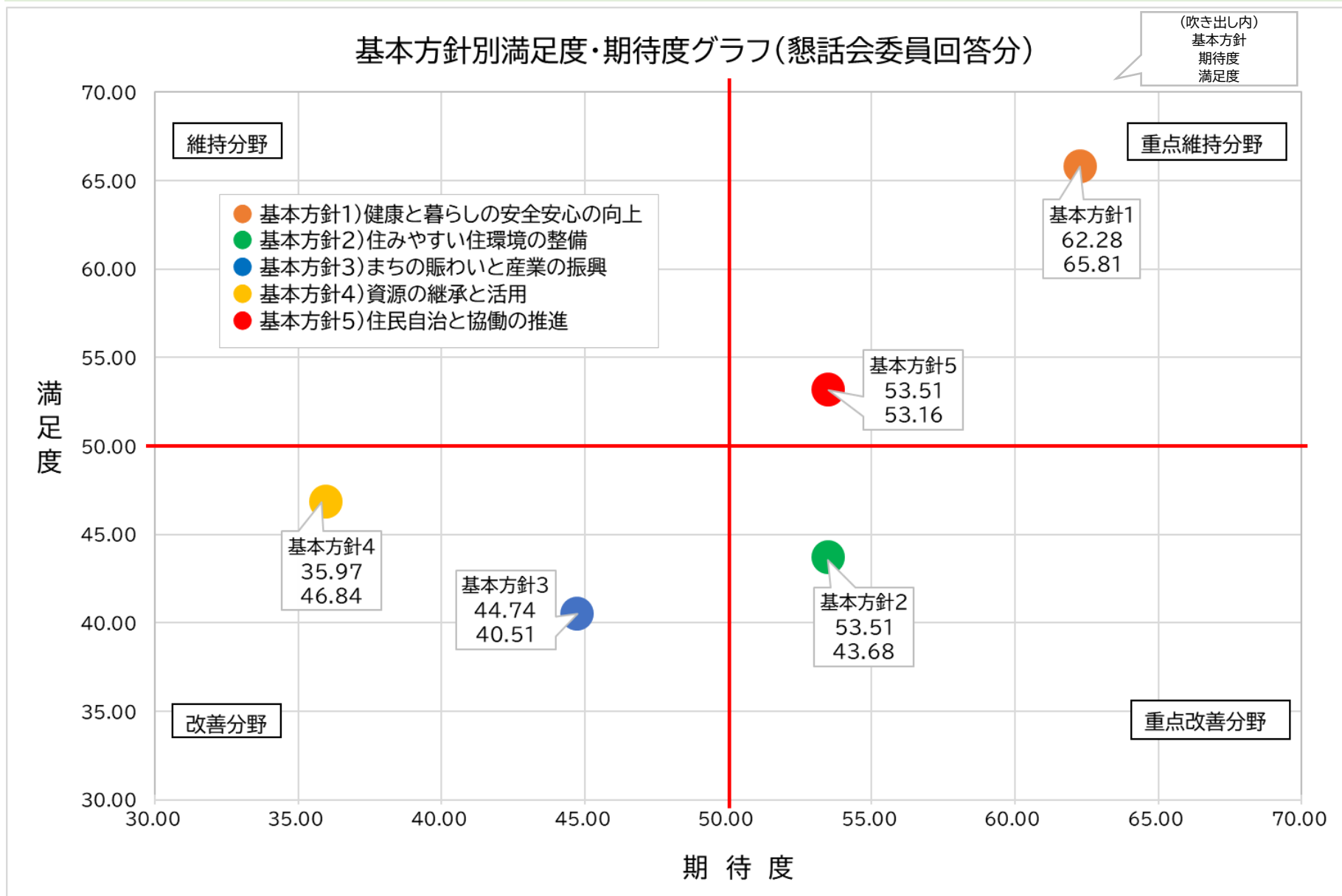
番号	委員からのご意見・ご感想	事務局記載	委員名
8	住民自治と協働については、「積極的にやっている人」、「やりたくてもできない人」、「やりたくない人」の三極に分かれるかと考える。今後は「やりたくてもできない人」をどう参画させるかが課題。やれることのハードルを下げた上で、楽しさを経験できる仕組みづくりが必要。	課題)自治会活動参加者の増加。	中島委員
9	子どもからお年寄りまで、すべての人々が集まって楽しめるコミュニティの場所が欲しい。		福田委員

2. 基本方針ごとの主な取組と成果（検証資料P.22～36）に対する懇話会委員からのご意見・ご感想

番号	委員からのご意見・ご感想	事務局記載	委員名
その他			
1	目標数値や具体的なイメージが設定されていないので、やることをやっているが、本来の目標には全く届いていないという印象。		丸山委員
2	様々な取組について、参加者の感想や意見などのアンケートを取って、しっかり検証して次の取組につなげてほしいと思う。		吉村委員
3	各方針に基づいて、限られた予算の中、それぞれの項目で良く頑張られていると思うが、その中での課題もまだ多いように思う。全体総括と評価を十分に行い、次期計画が策定されるよう望む。		野原委員

.

3・4. 基本方針別のこれまでの満足度と今後の期待度



.

5. 懇話会委員の専門分野において、この10年間で良くなった・充実したと感ずること

番号	委員からのご意見・ご感想	委員名
1	小学校でのタブレット導入によって、オンライン授業、ICTの活用、タブレットを使った資料作りなど、大人以上に子どもたちが知識を得ることができたのが良かった。	松尾委員
2	政令市に伴い、スポーツ大会等もより身近な距離で開催出来る様になり、北区スポーツ推進員協議会もいち早く発足。区役所近くに植木中央公園運動施設も造られ、多人数でも対応出来る大会が出来る事もより一層運動促進につながると思う。	浅井委員
3	まちづくりセンターのフットワークがよくなって、地域活動に関わる人間にとっては大変ありがたく思う。	白石委員
4	コロナ禍対応への役所の皆さんに並々ならぬご努力があり、一応安心してらせるまちと皆さん評価しておられる。	白石委員
5	講座への参加、講演への参加など、高齢者の積極性があり、その力を地域活動へ波及させてほしい。	白石委員
6	感染症対策が身につき、当たり前になったことで、コロナ以外の感染症の予防にもつながり良かったと思う。	吉村委員
7	防災の意識が高まり、保存食などを自宅に置いている人も増えたと思う。	吉村委員
8	コロナ禍で集会が開催されない期間が続きましたが、再開した際にも、今までと変わらない参加者の顔ぶれが集い、心強い印象をもった。	荒木委員
9	関係機関の協力のおかげで、子育て支援センターや高齢者サロン活動などの地域活動の中に学生を参加させていただくことができた。コロナ禍にもかかわらず、北区の地域の方々との協働活動を通して、学生が主体的に学んでいくことができる環境が充実してきたと感じる。	荒木委員
10	地域役員を10年以上務めてきて、熊本地震や新型コロナウイルス感染症の流行を経て、小さな範囲ではあるが、多種多様な人材がいることを発見できた。一部ではあるが、協働への意識向上が図られたり、困難を一緒に乗り越えることで、つながりが深くなったことは感じられる。	中島委員
11	色々な病気の治療薬は、色々な製薬会社で常に研究していると思うが、ワクチンとなると一般の医薬品の需要供給とは少し異なる。常に必要で、改良を要求されるものもあれば、その年の流行に合わせて作るものもある。流行が終わればいらなくなることだってある。今回のコロナの動きでも九州では常に福岡県について2番目に多い。それだけ人の出入り、接触が多いからだと判断すべきだろう。世界中で対応に苦慮している。対応は難しいけれども、それだけに全員が予防の大事さを常に忘れない様にしたい。	高木委員
12	～乳幼児分野において～北区は「互いに支え合おう」という雰囲気以前からある地域なので、地域・近所との繋がりにはコロナ禍であっても完全に切れることは無く、また状況が落ち着けば繋がりを強くしたいという気運を感じている。	山崎委員

.

6. 懇話会委員の専門分野において、この10年間で充実していない・不足していると感じること

番号	委員からのご意見・ご感想	委員名
1	コロナウイルス感染症によって、コミュニティが減り、PTA活動の減少や新執行部役員選出が周りの保護者とのコミュニケーションがなくなり、難しくなってきた。だんだん集団から個々の動きに変化し、PTA加入の問題につながるのではと心配している。	松尾委員
2	北区役所や運動施設が植木に集中した事で、少し距離がある清水地区や龍田地区の方々は不便さがあるのではないかと。	浅井委員
3	コロナウイルスの為、行事等みんなで集合出来ないのも、実施できないのには青少協として又、北区の理事としては、とても残念に思いました。	戸野口委員
4	(高齢者の立場から) 地域活動の主体者は高齢者であり、弱者中心も高齢者であり、2極化している。老人会が組織的に衰退しているの で再起し、これこそ共助体制が大切か。	白石委員
5	自治協、町内会など、コロナ流行で委縮している。何か町内会活性化支援、50～60歳の地域活動参加支援などないだろうか。	白石委員
6	困っている子ども(いじめ、ヤングケアラーなど)が誰がとらえているのだろうか。心配である。	白石委員
7	ささえりあ、区役所など、素晴らしい企画をしておられる。多くの人に伝わっているのだろうか。	白石委員
8	やはり、コロナ禍において、コミュニティや集まりが減った事で、特に高齢者の方は外出する機会が減り、精神的にも身体的にも弱くな った方が増えたのではないかと感じます。早くコロナが収まり、何も気にせず、様々な活動が出来るようになればと思います。	吉村委員
9	JRの駅近辺が閑散としていることが気になる。北区には無人・有人駅がありますが、公共交通機関を活用した地域活性化ができないか と感じている。	荒木委員
10	地域に運動できる施設が限られているので、大学等の運動施設を活用し、地域住民の健康づくりの取り組みができないかと思う。	荒木委員
11	やはり一番は担い手不足。地域の役員も高齢化しており、後継者が圧倒的に不足している。	中島委員
12	マスクのポイ捨ての対策はあるか。	高木委員
13	～乳幼児分野において～世帯の核家族が進み、若い世代のワンオペ育児が増えているように感じている。高齢者の方の知恵や経験を若 い人も共有できる機会の必要性を感じている。	山崎委員
14	人々の往来が減ることによって、経営環境に影響が及ぶ。逆に人も、行動を制限されることによって、コミュニケーションが制限さ れ、元気がなくなる。人の交流、心の交流を通して、人々が健やかに生活できる北区であってほしい。	福田委員

.

7. 自由意見

番号	委員からのご意見・ご感想	委員名
1	北区の現状を知る数字情報を示して、データベースな議論が必要では？（人口、世帯、産業、生活、、、） 数字はあると思うが見える化が必要。	丸山委員
2	さらに、4つの地域に分けて、まちづくりセンターを設置したのだから、4つの地域別にデータベースを作るべき。どこにどんな特徴があり、どんな課題があるかを数字で見える化することで、より具体的な議論が可能になるのでは？	丸山委員
3	コロナの影響で、これまで地域活動を担っていた高齢者の方々も参加しにくくなり、そのまま移行すると、地域の担い手が急速になくなるリスクがあると感じる。新しい地域コミュニティのあり方を構築する必要がある、そのチャンスでもある。	丸山委員
4	検証資料はとてもよく出来ていると思う。1人で見るとにはもったいないので、皆んなが集合する時に一人でも多くの人に見てもらいたいと思う。	戸野口委員
5	まちづくり推進経費、平成27年度から残額が多くなったような気がします。最近ではコロナ事情で、と思いますが、正しい実のある使い方という方針からこういう結果なのか。	白石委員
6	北区の課題5項目、良く理解できます。よろしくお願いします。	白石委員
7	よく”連携”とか”つながる”とかありますが、具体的にはどんなことが一番なんだろうか。	白石委員
8	5区それぞれに地域や環境などの違い性がある中で、区毎の特性を施策がなされていることは重要だと思う。その中に住民の意見をきちんと反映させることは不可欠であり、またその過程にもしっかり関わることも重要だと思う。その意味において、まちづくり懇話会の持つ意義は大きいと思う。	野原委員
9	今後も行政と地域住民が魅力ある住みたくなる北区の更なる進展を目指して、連携・協働して取り組んでいければと思う。	野原委員
10	人口減少が今後も続く状況は今後も変わらないと感じます。P38に記載されている北区の課題からも、北区の観光・歴史・文化・産業や関係機関等の地域資源を活用して、交流人口の促進を促す取り組みが今後も必要であると思う。	荒木委員
11	北区に立地する保健医療分野の大学として、北区民の健康寿命の延伸などの地域の課題や健康づくり活動に積極的に貢献できればと考える。	荒木委員
12	年代別のデータも知りたい。	中島委員
13	10年を機に、それぞれの町内や校区が実施してきた施策を募集して「北区まちづくり大賞」などを実施してはどうか（データは紙、プレゼンデータ、PR等）。他の校区・町内の取組が参考になることも多いため。	中島委員
14	北区役所の周辺を歩いていると、椅子が欲しいなあと思う所がある。正しく利用されないのかもの心配もあるかもしれない。テストケースとして試してみたい。	高木委員

7. 自由意見

番号	委員からのご意見・ご感想	委員名
15	隣の合志市の弁天山は利用者が多い。特に病気(コロナ) 流行時から増えた様に思う。あそこは地域住民が過去に植林している。当時は協力者の名前入りの植林だったが、今は山の一つの魅力となっていると思う。すでに協力者の名前は今は見えない。それなりの歴史があると思う。	高木委員
16	北区役所から3号線を越えようとするスーパーの前を渡ろうとする時の信号が歩行者には短すぎると個人的には思う。もう少し長いとありがたい。無理な要望でしょうが、検討していただきたい。中央公園までの道は歩きやすく、歩道と車道がはっきり分かれている。	高木委員
17	細かく資料を作っていただき、ありがとうございます。Youtubeでの説明もあり、大変分かりやすかった。	山崎委員